



公共施設の再編に関する意見交換会 概要報告

日 時	令和元年6月8日(土)10時00分～11時30分																									
場 所	皆瀬総合支所 2階会議室																									
対 象 地 区	皆瀬地域																									
参 加 者	12 人																									
	内 訳	計			20代			30代			40代			50代			60代			70代			80代			
		計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	
		皆瀬地域	11	9	2	1	1		1	1		0			3	2	1	4	3	1	2	2		0		
		そ の 他	1	1	0	1	1		0			0			0			0			0			0		
計	12	10	2	2	2	0	1	1	0	0	0	0	3	2	1	4	3	1	2	2	0	0	0	0		
市 出 席 者	湯沢市公共施設アドバイザー、 総務部長、企画課長、企画政策班長、担当、協働事業推進課長																									
概 要																										
開 会	<div><div>総務部長</div><div></div></div>																									
あいさつ																										
説 明																										
<div>(企画課) ① 公共施設を取り巻く課題 ② 湯沢市公共施設再編計画中間案の概要</div> <div><div></div><div></div></div>																										

概 要

情報提供

他自治体の取り組みと湯沢市の取り組み（湯沢市公共施設アドバイザー 川嶋幸夫氏）



質疑応答、 意見交換



○皆瀬地域のように人口が少ない地域では、施設の利用率も低くなってしまう。利用率の割合だけで廃止すべきではないし、人口が少なくても残さなければいけない施設はあるはずである。反対に、人口が多い地域の施設だからといって残す施設が多くならないよう、我慢してもらわなければならない場合もある。また、市として地域ごとに力を入れることを考えるべきではないか。皆瀬地域は、観光客が多く訪れる場所であるので、観光案内所やあぐり館について力を入れるなど活性化方針を出してほしい。

⇒（アドバイザー）本来は、皆瀬地域の課題と、その解決策、課題解決のために公共施設はどうあったら良いのかというプランがあるべきである。市全体の分野ごとの各種課題の洗い出しはしているが、地域ごとの具体的な計画は無いとのことだった。地域ごとの振興計画を策定し、どこに力を入れるのか、公共の役割と地域の役割、民間の役割をどうしていくのかを検討したうえで、公共施設の方向性を決めるべきだと考える。

⇒（市）人口の規模によって施設の方向性を決めるべきではないと考えている。また、各地域ごとのまちづくり計画を、地域住民の皆さんと一緒に考え、地域の特色に応じた展開が必要だと思っている。

○学校の再編について、皆瀬小中学校と山田中学校は児童生徒数の推移により検討するとのことだが、例えば、皆瀬小学校は、将来のことを見据え、稲川地域の小学校の統廃合と併せて検討すべきだと思う。中学校の部活では部員が足りず、他校との合同でチーム編成をしている学校もあるが、山田中学校の生徒が湯沢南中学校や湯沢北中学校に行っている場合があり、そのことは、市でも把握しているはずだと思う。

⇒(市)学校再編計画は、素案の段階だが、今後地域の皆さんと議論しながら、年内に成案化する考えである。教育委員会では、1小1中という小中連携教育を推進する考えと、複式学級は解消しなければならないという考えの下に、1学級あたり25名程度が適正であるとしている。皆瀬地域については、当面現状維持ではあるが、児童生徒数の推移によって統合が必要な時期に検討するとのこと、今は明確に示していないという状況である。学校は地域のシンボルであり、旧市町村の小学校単位が地域の皆さんのコミュニティの単位となっているため、ある程度は残すべきという考えがあると思う。

○地域に小中学校があれば良いのは理解できるが、学校統廃合後の廃校舎の活用まで考えていなければならないと思う。

⇒(アドバイザー)小学校、中学校はコミュニティの拠点でもあることから学校の機能が無くなったとしても、施設は地域の拠り所として、使える間は十分使い切ることが基本的な考えである。廃校舎には何を入れたら良いのか、まずは地域の皆さんと相談して、地域の皆さんが使える方法があればアイディアを出してほしい。地域でも利用が無い場合は、民間の営業ベースで使ってもらうなど、一定の戦略を練って取り掛かる必要がある。

○公共施設が減ることは、距離が遠くなるということでもある。高齢者が気軽に使えるよう、足を確保することで、距離が遠くなっても行政サービスの質の低下には繋がらないと思う。

⇒(市)皆瀬地域の公共交通は、バスの定期路線や、予約制の乗合タクシーを運行しているが、利用数が非常に少ない状況であるので、できるだけ自家用車に頼らず、交通機関を利用していただきたいと思う。今後、施設を集約した際には、公共交通の整備を併せて検討しなければならないと考えている。また、全国的には、地域主体の有償運送等を行っている例もあり、地域にあった移動手段をどうするのかは、大きな課題である。

⇒(アドバイザー)サービスを低下させないことを前提に公共施設の再編を行い、施設が無くなっても機能は残し、代替機能を確保していくことを原則としている。施設から遠くなった場合の地域交通をどうするのかもセットで考えていかなければサービスの低下になってしまう。

○皆瀬地域以外の、市全体の公共施設について知る機会になり、勉強になった。地域ごとにアンケートを実施してもらったが、多くの人が興味を持っており、思っていることもたくさんあるのではないかと。今後も、自分の意見を言える環境があれば良いと思う。

⇒(市)このような意見交換の場もあるが、公共施設の再編に限らず、行政への参加の機会を増やすなど、参加協働のまちづくりを進めるため、自治組織を中心に行政とのパイプを強くし、意思疎通しやすい環境を目指している。皆瀬地域のアンケート結果で、何を優先的に残すべきかという内容では、福祉・医療系施設という意見が一番多く、次いで学校、行政系施設(支所)という意見だった。皆瀬診療所については引き続き継続し、皆瀬支所についても今後周辺の施設との複合庁舎として整備を検討する。市民の皆さんとの意見交換の場は、今後も様々な機会を設けていきたい。協働事業推進課でも自治組織の総会に全て参加し、今後も地域の方々と意見交換する機会を増やしていく予定である。それぞれの地域課題や特徴、活動の内容をどのようにしていくかなど、地域の皆さんとの話し合いを今後計画していく。

○受益者負担について、施設の使用料は、やみくもに高くすれば良いというものではなく、例えば一人500円になるようだと困る。

⇒(アドバイザー)使用料の見直しについて、高い金額を求めている訳ではなく、少なくともランニングコスト程度の一定の負担をお願いするような改正になると思う。具体的な金額については、提示できるようになったときに、御意見をいただきたい。

○事情があって、場所が変わったり、縮小されたりすることは理解できるが、小安温泉スキー場が廃止された時は、様々な意見を出したが、結局市の方針案のとおりになった。最終的には費用対効果なのかもしれないが、策定されるまでに丁寧な議論をお願いしたい。

⇒(市)現在は、中間案の段階で、今年度末まで成案化していくが、個別の施設について利用者の方々や地域の皆さんと協議する期間を2年間としており、この期間に徹底した議論をしていくべきと考えている。昨年度から様々な機会を設けて意見交換をしているが、最初から答えありきで進めている訳ではなく、施設の方向性、市の方針、全体の状況を詳しく説明し、皆さんと話し合いながら決定していく。

⇒(アドバイザー)全国的には、行政で決めた方針を一方向的に説明しただけの自治体もある。また、地域ごとにディスカッションをして、ワークショップ形式で意見を聞いたうえで最終的な計画を作るといった丁寧な取組を行なっている自治体もある。湯沢市の場合は、この意見交換会を地域ごとに昨年度は各2回、今年度も2回実施するほか、出前講座も実施している。また、若者や女性で構成する協議会や無作為抽出の市民による市民討議会、さらに各関係団体からの委員等からなる市民会議と、四段階で意見を吸い上げながら、中間案を成案化していくという、非常に丁寧な取組をしている。公共施設は地域の皆さんの生活に馴染んでいる施設であり、十分協議して、一定の理解を受けたうえで進めていくことが重要と考える。

○今後の方針や計画を、地域ごとに早くまとめて提案してほしい。時間をかければ丁寧に議論したというように捉えられるが、利用率が低い場合は、なぜ低いのか、一人しか利用していない場合は、なぜ一人なのか、広範囲に募集をかけられないのかなどといった部分も調査してほしい。

⇒(アドバイザー)中間案は、利用の内容を精査したうえで、目的どおりの使い方になっているかどうか、十分精査しながら整理しなければならないという考えでまとめている。例えば、スポーツ施設は、健康づくりのために設置しているが、健康づくりのための施策をやらないうで、貸し館だけで使ってもらっては、市は何もやっていないのと同じである。そういった施策を実施したうえで、利用率が伸びなかった場合は、ニーズがないと言える。人材不足が原因で実施しないのであれば、民間の力や地域の力を使ってチャレンジして、3年、5年実施しても駄目であれば撤退もやむを得ないかと思う。努力すべきことをしないで、利用率だけで判断することは拙速である。施設が使える間に、管理運営のあり方を見直し、有効利用や使える工夫をしたうえで、最終的なジャッジをしていけば良いと思っている。

○こういう会に参加できない人や、施設の利用者から意見が取れていないのではと思う部分があるので、市民の意見をしっかり集約しながら進めなくてはいけないと思う。また、とことん山はスキー場が無くなりキャンプ場だけになった。とことん山は、今後どう利活用していったら地域が盛り上がるのか、どうやったら地域に移住してくる人が増えるのか、そういった市民との意見交換の場があればいいと思う。

⇒(市)意見交換会に参加出来ない人への対応として、昨年度はアンケート調査を実施した。ホームページや広報などでも情報提供しているが、もっと関心を持ってもらうにはどうすれば良いのか検討が必要であると認識している。スキー場が廃止になった後の、小安峡温泉地域の活性化策については、観光・ジオパーク推進課が中心となり、地域の方々や皆瀬村活性化センターと昨年からの取組を進めている。中間報告が不足していると思うので、その点は伝える。今年度末までに、単なるとことん山の再生ではなく、小安峡温泉地域の活性化に繋がるプランを作り、観光ガイドや小安峡温泉組合の皆さんなど関係する方々総参加で進めていくことを目指す。

○市職員は、施設にこまめに足を運び、利用が多い日に行ってどんな人が利用しているのか、利用者の話を聞くなどといったことも必要でないか。数字だけでは、なかなか伝わらないこともあると思う。

⇒(アドバイザー)市が持っている情報をどうやって市民の皆さんに提供していくのか、アイテムはたくさんあるが、それがしっかり伝わっていないものもある。ホームページを見られない人や、目が良く見えない人もいるため、どのようにきめ細かに情報提供をして、市民の皆さんに情報を理解していただくのか、一方通行ではない方法を考えていかなければならない。

○今まで施設をあれこれ目的を持って建ててきたのにも関わらず、施策がなかったところは反省しなければならないが、現実的に減らさないといけない状況になっているのは、やむを得ないと思う。学校の再編に関しては、人口や地域の規模で判断すべきではないと考える。学校の統廃合に関しては地域性のほか、地理的な要因で難しいところがあるのではないかと感じている。

⇒(アドバイザー)基本的には、学校というのは地域のコミュニティの拠点だということ、子どもにとってどういう環境が良いのかということが前提にある。また、夜間や休日など学校施設を使える時間帯に、どうやって地域の皆さんに提供していただけるか、施設を有効活用する中で、地域の拠点としての学校はどうあったらいいのかということも整理していかなくてはならない。

閉会	11時30分終了
----	----------